

心は花

節は自分で つくるもの。

今年度も残り約一週間になりました。校長先生からも言われているように、次年度に向けて準備する時期です。

将来のことをしっかりと見据えて毎日過ごすか、

それとも無駄な毎日を過ごすか、どちらを選ぶかで、必然的に結果は変わっていくでしょう。言い換えると、

いかに備えるか(準備するか)、ということなのです。

どれだけ備えることができるか…。それは、過程(プロセス)を大事にすることです。行き当たりばったりでは、備えたことにはなりません。

備えとは、「予(あらかじめ)」を大切にすることです。

「予感」「予想」「予習」「予測」「予防」「予期」…の「予」です。あらかじめ「感じ」、あらかじめ「想像し」、あらかじめ「学び」、あらかじめ「測り」、あらかじめ「防ぎ」、あらかじめ「覚悟する」…。

「今度の大会、勝てるかな。」「明日の試験はどんな問題かな。」「…、今どんなに考えてもどうにもならない未来のことを考えて、不安になったり、心配したりするくらいなら、自分の力でどうにでもできる」

「今」をもっと大切にすること。

大切なのは、あらかじめを考え、正しく準備することなのです。

学校には、新年度、新学期、始業式、終業式、修了式…、と一年間にはいろいろな節目があります。

それぞれの人がこれらの節目を意識して過ごすか、これ

が今を大切にすることにつながります。

学年の終わり、というのはある意味誰にでも来るものです。だが、これを「大切な区切り」と意識して迎える生徒と、漫然として終わりを迎える生徒がいます。終わりに向けて、意識して締めくくり、次の新しい始まりにまた強い気持ちを持って臨む(やるべきことを決めて強くスタートする)。

そういうことを毎年・毎学期繰り返す人とそうでない人は、年数を経る内に、成長の差、積み上げた技能の差が大きくなるのは「必然」です。ただ何気なく過ごしても誰にでも一様に節目は来ますが、それだけでは成長する機会を逃していることになります。もったいないのです。

『地震が来たら、竹藪に逃げよう！』という昔の言葉があります。竹は他の木に比べると非常に強いのです。

その理由は、「地中につながった根をはりめぐらせている」から、めったなことでは倒れません。

もう一つは、「竹には堅くて強い「節」があるから」です。

一度、そのめん流しをしようと思い、竹を切ったら、節の所はとても堅く、なかなか切れませんでした。

もし竹に節がなかったら、しならないので弱いでしょう。

人間も一緒に、人にとって「節」は大事なのです。目に見えないけれど、〇年生の▲期というのは、心の中に節を作るための工夫が節なのです。もし学生に「入学」と「卒業」の二つの節しかなかったら、どんなに弱い竹になるでしょう。ところが、学年、学期に加えて、体育大会、中体連、定期テスト、西南文化の日、新人戦…、

色んな人生のポイントで、

自分なりの節目をつくることができる。

だから、ちよつとやさつとでは倒れない、たくましい人になるのです。

自分で意識して、あなたの中に「節」をつくってください。まずは、令和七年度のスタートという節目から。